

さんま通信



厚生中央病院だより 第51号 2017年

秋



ご挨拶

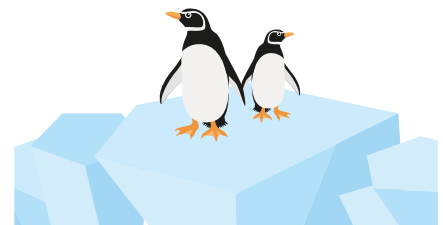
産婦人科部長 池田 俊一

このたび、ご縁をいただき、厚生中央病院産婦人科に勤務することになりました池田俊一です。入職し約1か月半が経ちましたが、今までとシステムの異なる病院に来て、戸惑いも多く、患者様をお待たせしてしまい、御迷惑をお掛けしております。一日でも早く病院のシステムに慣れ産婦人科の一員としての責任を果たしていきたいと思っています。

今まで、築地の国立がん研究センターで婦人科癌を専門に診療を行い、年間3桁の癌の手術を行ってきました。手術は丁寧にいき、出血を少なくすることを常に心がけております。丁寧に手術を行うことは、出血を少なくし、出血が少ないことは手術の合併症を減らせると信じているからです。婦人科の癌は子宮頸癌、子宮体癌、卵巣・卵管癌、外陰癌、腔癌が主ですが、厚生中央病院でも国立がん研究センターで行ってきた診療を継続して行っていきたいと考えております。

私は福岡生まれの鹿児島育ちです。趣味は旅行で、家内とあちらこちらと旅しております。東京に住んでいるせいか自然を感じられる地域が好きです。今まで一番印象に残ったところは冬のアルゼンチンのパタゴニアの氷河です。高さ70mの氷河は圧巻でした。オーロラを見たことのある人がパタゴニアの氷河を見て、オーロラより素晴らしいと言ったのを聞いたことがあります。氷河に閉じ込められた空気が圧縮して波長の短い青い光だけを反射させるため、氷河の氷はきれいな水色に近い青色を呈しています。ただ場所によっては冬にもかかわらず土が露出している部分もあり地球温暖化の影響を強く感じました。

これからも患者様と真摯に向き合い、お一人お一人に最善の医療を行ってまいります。宜しく願いいたします。



目次 contents

ご挨拶 1

超音波内視鏡とは 2~3

健康管理センター増設のお知らせ 4
がん暮らしフェア2017



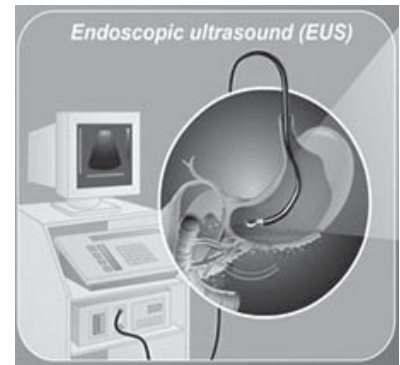
目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

超音波内視鏡とは

消化器病センター(内科)

統括部長 根本 夕夏子

超音波内視鏡（Endoscopic ultrasound : EUS）は超音波装置を伴った内視鏡で、消化管のなかから超音波検査を行い、消化管深層もしくは消化管外の情報を得ようとする検査方法です。体表からのエコー検査と異なり、胃や腸の中の空気や腹壁、腹腔の脂肪、骨が画像化の障害になることもなく、対象臓器または病変の近くから高い周波数の超音波をあてることのできるため、高い分解能（識別能力）の超音波観察が可能です。



超音波内視鏡で何がわかるのか？

おもに上部消化管（胃、食道、十二指腸）、大腸、膵臓・胆道で使われ、各臓器の内部、周囲の臓器、血管、リンパ節などの情報がえられます。

消化管の内腔から超音波検査を行って、組織の内部を観察することができます。食道、胃、大腸の粘膜の層構造を見ることができるので、潰瘍などの病巣がどのくらい深くまで及んでいるか（深達度）や、表面には見えない粘膜下の腫瘍などを調べることができます。

超音波内視鏡は病巣の深達度診断の他、直接内視鏡で観察することが困難な部位（膵臓、胆のう、胆道）の精密検査としても行われます。胆嚢ポリープの良性・悪性のおおよその判断が可能です、検出能力の最も優れた検査となっています。また、胆石、総胆管結石、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がんが疑われる場合にも行われます。特に、診断が難しいとされている慢性膵炎と膵臓がんの診断には欠かせません。

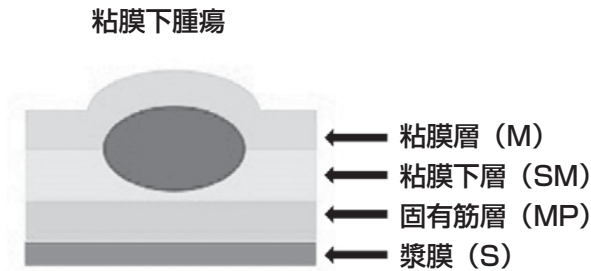
病理検査のために、超音波内視鏡ガイド下穿刺（Fine needle aspiration : FNA）といって、超音波で粘膜下の状況を確認しながら細胞を採取することも可能です。

超音波内視鏡はどのように行われるのか？

検査方法は通常の内視鏡検査と同様です。内視鏡を病変の近くまで進めた後、消化管の中にお水をためて超音波のプロブをあてる方法と、内視鏡先端に装着したバルーン内に一時的に水を貯めて観察を行う方法があります。精密検査になりますので、検査時間は、通常の内視鏡と比べ多少長くなります。検査の注意事項も通常の内視鏡検査と同様です。

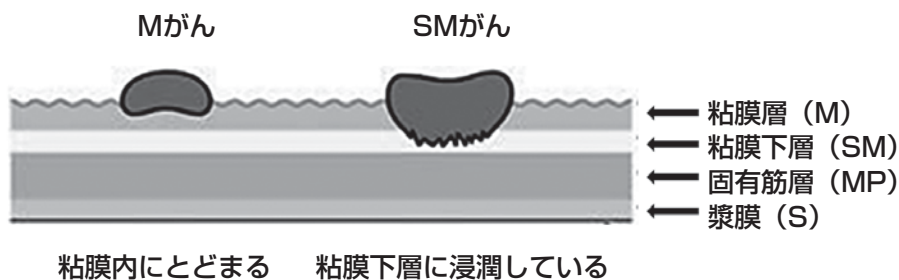
粘膜下腫瘍に対して行う場合

粘膜下腫瘍とは、粘膜より下の粘膜下層以深を主体とした腫瘍です。超音波内視鏡検査を行うことにより、病変の拡がりや悪性度などの診断がある程度可能になってきます。その他CTなどの検査も合わせて考えることですが、治療をするべき病変なのか、それとも経過を見てもいい病変なのかを判断する大事な検査になります。



がんに対して行う場合

超音波内視鏡検査は主に早期がんといわれる粘膜下層より浅いがんにたいして行われます。なぜなら消化管の臓器において、がんの浸潤が粘膜筋板という層を超えてくると、リンパ節の転移の可能性が途端に増えてくるからです。超音波内視鏡検査を行うことにより、粘膜層にとどまる病変は内視鏡治療の適応、粘膜筋板をこえて粘膜下層まで浸潤する病変に関しては、外科的手術を行うことによりがんの根治を目指せます。つまりこの検査は内視鏡か手術かの治療の選択について迷うような症例に対して行われることになります。



超音波内視鏡は、検査にかかる時間が長くなるため、当院では鎮静剤を使用します。この検査で得られる情報が、病気の診断および治療に必要ですので、検査を勧められた場合は頑張って受けましょう。



健康管理センター増設のお知らせ

予約
受付中

当院では、平成30年1月から別館2階フロアで、新たな人間ドックをスタートします。

予約専用電話番号 **03-6863-2892** 予約受付時間 **平日13時～16時30分**

新設

レディースドック

(木曜・金曜・第2,4土曜)

1日人間ドック

+

婦人科検診

乳腺超音波
(マンモエコー)

マンモグラフィ

胃内視鏡

【自己負担金額(税込) 全国土木被保険者の方 27,000円、一般の方 68,040円】

新設

レディースがん検診

(水曜及び木曜の午後)

婦人科検診

+

マンモグラフィ

+

乳腺超音波
(マンモエコー)

【自己負担金額(税込) 全国土木被保険者の方 17,280円、一般の方 17,280円】

1日人間ドック

(月曜・火曜・第1,3,5土曜)

※男性専用曜日

1日人間ドック

(水曜)

※女性専用曜日

1日人間ドック

+

胃内視鏡

【自己負担金額(税込) 全国土木被保険者の方 10,800円、一般の方 51,840円】

※健診料金、コース内容等は変更する場合がありますので予めご了承ください。

がん暮らしフェア2017

考えよう、体験しよう!
がん治療と暮らし・仕事

11月3日(金) 11:00~16:45

会場:総合病院 厚生中央病院 ロビー

がん治療中でも、心地よく暮らしたい、
できるだけ仕事もしたい。
そんな患者さんやご家族のために、
暮らしの知恵や工夫を集め、体験できるイベントです。
楽しいステージや、見逃せない情報が
いっぱい展示・セミナーが皆さまをお待ちしています。

体験展示コーナー

学ぼう!暮らしセミナー

暮らしの相談コーナー

楽しい!メッセージモビール作り

ココロとカラダにやさしいヨガ体験

アロマ ハンドマッサージ体験

素敵なお土産や
サンプル配布も
あります

11:10~11:50 トークショー

がん体験者に聞く。
がん治療と仕事の両立、本当のところ。

がん体験者の方をお招きし、ご自身の仕事の体験を語っていただきながら、治療と仕事を両立するポイントについて伺います。

13:40~14:10

スター混声合唱団コンサート

大人気!
お見逃しなく

山田邦子さん率いるスター混声合唱団が厚生中央病院にやってきます!山田さんご自身の乳がん体験の話を交えた、楽しい歌とトークを繰り広げます。

入場無料

全てのがんの患者さん、
ご家族を初め、
皆様のご参加を
お待ちしております



お問い合わせ先 イベントの詳細は **がん暮らしポータル** 検索

がん暮らしフェア事務局 (がん暮らしポータル内)
TEL.03(3546)6101 [平日10:00~17:00]



総合病院 **厚生中央病院**